

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392400194		
法人名	医療法人親理会		
事業所名	グループホーム明日 (東ユニット)		
所在地	愛知県半田市郷中町2丁目7番地		
自己評価作成日	平成28年 2月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2392400194-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2392400194-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体である中町クリニックが近くにあり、急変などの対応が素早くでき安心して生活できます。ラジオ体操や嚙下体操も毎日とりいれ体を動かし、またレクリエーションでは歌を唄ったり、絵を描いたり、折り紙を折ったりと飽きのこないようにバリエーションを増やしています。食事は職員が作りますが、刻みやお粥など体調に合わせた食事形態にも対応しています。入居者一人一人の個性を重視し安心して生活ができるよう押し付けや職員の自己満足にならないよう申し送りや会議の場で職員同士注意するし合うようにしています。グループホーム明日の理念である”あきらめずに、信念をもって、たくましく”を実践できるよう代表者、管理者と職員のコミュニケーションを大切にするため面談や声掛けにを頻回にしており退職者も減少してきています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員の入れ替わりをきっかけに、内部体制の充実を図り、研修&勉強会に力を入れ、職員会議を設置する等、この一年での体制改革には目を見張るものがある。開設から2年目を迎え、利用者受け入ればかりではなく、職員の入れ替わりについても、ようやく落ち着いてきた感がある。利用者の自由を第一に考え、好きなように過ごしてもらう支援を実践し、個別支援重視の支援提供に、職員のスキルアップが不可欠となっており、現体制下の研修や勉強会の推進もなづける。現在、男性利用者が全体の半数を占め、レク活動や趣味の継続等、女性利用者とは一味違う現状に対し、人対人の対応の在り方を模索している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも職員全員が理念を意識して行動できるように事務所に掲げている	「あきらめずに信念をもってたくましく」のホーム理念をホーム内に掲示し、意識を高めている。	ホーム理念策定は完了し、今後はユニット目標策定、さらには個人目標への落とし込みに向け、体制構築が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に参加して頂けるイベントを1年に1回は行なっている	母体クリニックが地域の医療機関として貢献度が高く、ホームばかりではなく併設のデイサービスを含めて、地域に認知されている。デイサービスで毎月開催する認知症カフェを協働し、利用者参加で地域住民と交流している。	ホーム単独での交流という点では、経過年数も少なく、今後の課題である。今後は商店や飲食店利用等、地域資源の活用を通じた交流支援等の検討に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知症カフェを開き地域の方々に参加していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者が自由に意見が述べられるよう会議を進めている	年6回の会議を開催している。家族、市担当、地域包括支援センターの参加がある。運営報告、質疑応答、意見交換等の場として活用している。家族の参加が多く、共に運営を考える機会としては最良の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただきまた折につき相談や意見を頂けるようにしている	運営推進会議へは毎回の参加があり、ホームの現状理解の上で連携している。日常の相談・報告を通じ、適切な助言や指導を仰ぎ、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は施錠されているが入居者に閉じ込められて居る感をもたせないようケアに努めている。また管理者から職員に向けて身体拘束ゼロを声掛けしている	ホーム内研修・勉強会・事例検討等、支援実践を通して正しい知識を理解できるように取り組んでいる。身体拘束排除のホームの方針を周知し、現在も安全確保を含む身体拘束事例は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についてのテストをしたり勉強会をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで説明し理解を図っている。基本的には管理者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を見ながら説明して途中で理解できたか質問はないか確認しながら理解度を高めるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来所時や運営推進会議の時に何でも意見を言ってもらえるような環境を作り、出来る限り実現できるようにしている	運営推進会議やホーム行事、面会時等には直接話をして意向を聴き取っている。また、電話やメールを活用して聴き取る場合もある。聴き取った内容は職員間で共有し、運営や支援内容に反映させている。	今回の家族アンケートの結果から、提供する支援内容が家族にまで届いていないケース(特に外出支援)が見られることから、家族への情報提供方法に一考が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が意見を聞くようにアンケートをとったり個人面談を行なっている。また日常業務のなかでも意見を聞いている	月1回の職員会議とユニット会議を開催し、職員の意見や提案を聴取している。支援内容の提案の実現率は高く、職員のやりがいにつながっている。管理者は、個別に話し合う時間を持ち、離職率の軽減につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備できていない所は、代表者に意見や相談をして働きやすい環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が各種研修をうけられるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在実施できていない。積極的に相互活動を実施していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人家族と会って心身の不安等に耳を傾け入居当日には面会した職員が立ち会うようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しをよく聞き、何を一番にホームに求めているのかできる限り希望に添えるよう話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しを聞き心身の状態をしっかりと把握し、必要としている支援を見極めサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を人生の先輩として尊重し、生活のうえでの知恵を教えてもらったり日々の暮らしの中でもできる事を一緒にてつだってもらったり楽しんで頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に日頃の様子をお伝えし情報交換をしている。また必要な物、必要な支援についても家族と話し合いをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては家族知人など訪問者の制限はしていない事を家族と話をしている	移行に沿って、外出が好きな利用者の支援、趣味の習字の継続、写真の継続等、積極的に支援している。家族外出を奨励、推進し、より馴染みの関係継続が叶うように配慮している。親族の集まりの参加、住んでいた家への帰宅等、事例は多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルがないよう座席の配置に気を配っている。また入居者同士が楽しく過ごせるよう職員が間にはいり支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人家族の了解を得て、他に移られても訪問し関係性を継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、本人との関わりの中で得るようにしている	意向表出が難しい利用者もおられる中、日常の会話や関わりから本人の意向や希望を汲み取っている。生活歴や家族からの働き取り等も併せ、本人の意向を確認・把握し、必要な場合は介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、サマリーを職員全員が確認しまた本人との関わりの中から得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人ができることを見極め職員が過度な支援をしないようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングを用い月一回の職員会議で話し合いをしている	基本的に、6ヶ月毎の見直しと3ヶ月毎のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスはユニット介護の中でを行い、本人と家族の意向を重視した介護計画を立案している。	ケアカンファレンスでの介護計画立案以前に、本人と家族参加の、サービス提供に関わる人が一堂に会するサービス担当者会議の実施が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌を活用し気づきやケアの情報共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日変化する心身の状態を把握し職員間で話し合い案を出しあいより良いサービス提供ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の力を借りながらもっと楽しく過ごせるよう地域資源を有効に今後は活用していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体であるクリニックの医師の定期的診察があり、体調が悪い時はすぐに対応してくれる	現在は全員が母体クリニックをかかりつけ医としている。医療体制は充実しており、本人と家族の安心に充分応えている。専門医等他科受診は家族対応となり、家族と連携して情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度診に来てくれ相談助言い頂ける。また緊急時には1階デイサービスの看護師に相談指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には頻回に病院にお見舞いに行き早期に退院できるよう看護師、ドクター及び家族と連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早いうちに家族移行を確認しそれに沿って医師との相談もとてご方針を立て職員全員協力して支援にあたる	看取り、終末期支援については、原則、希望に沿ったできる限りの支援を方針としている。急変時には、母体クリニックの医師の判断で、救急搬送か、ホームにとどまるかを判断し、対応している。常に、本人にとって最善の支援方法が選択できるように、話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的に行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと避難訓練、消火器取扱いの訓練をしている	併設デイサービスと合同(日中想定)の避難訓練と、単独の夜間帯想定避難訓練を実施している。消防署との立ち会い、消火・通報訓練の実施も有る。避難経路の確認、デイサービスと共同での備蓄等、高い意識で取り組んでいる。	運営推進会議において、地域住民と共に防災についての話し合いを持ち、さらには協力関係構築に向けての関係づくりの推進が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況に合わせた声掛け対応を行なっている。常に笑顔を中心掛けている	スピーチロックの勉強会を通じ、本人尊重の意識付けを行っている。利用者一人ひとりの性格や特性を理解・共有し、適切な対応に努めている。	利用者に対する接遇研修、プライバシーの考え方の勉強会等、現時点で「個人努力」となっている取り組みの集約化に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や行動に気を配り利用者に合った声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にし利用者に合った声掛けを心かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容髭剃りをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握して栄養が偏らないよう献立を考え提供している。食器洗いや食器拭きを手伝って頂いている	現在は、利用者と一緒に調理をするという状態には無く、職員主導の支援となっているが、利用者の嗜好やメニューの希望を聞き取り、献立を決めたり、季節の食材を工夫したりと、食事が利用者の楽しみになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が極端に減った場合、好きな物食べやすい物を提供し、水分が少ない方にはゼリーにして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。定期的に歯科の往診がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い一人一人の排泄パターンを考慮して声掛け誘導を実践している	トイレでの排泄を基本に支援している。見守り、介助、声掛け、時間誘導等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。排泄チェック表を活用し、様子確認を行う等、本人の尊厳を大切に、失敗のない排泄支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物(牛乳・ヨーグルト繊維質な食材)を摂るようにし水分摂取に気を配り便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強い拒否がある時は無理強いをせず、入居者の希望に合った時間帯に入浴して頂いている。時には入浴剤やゆずなどで入浴を楽しんで頂いている	毎日の入浴を提供している。最低週2回以上の入浴ができるように入浴管理を行い、出来る限り希望の時間帯で入浴してもらっている。以前は無かった午後入浴に踏み切ったのは、「夕方でない」と入れない」という利用者の希望からである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の寝たい時間に布団に入るよう支援しており、なかなか寝付けない人には眠くなるまで無理にベッドに連れて行かずソファでゆっくりして頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬みずが無いよう、本人の前で名前、日付等を読み上げて服薬して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日体操レクリエーションを行ない気分転換できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出行事や誕生日外出の他、歩いて行ける喫茶店に行ったりお店に買い物に行ったりしている	ほぼ個別対応での、外食、外出、散歩、買い物等、社会資源を活用した「お出かけ」の機会は多い。その他、家族外出支援、ホームの行事外出等、ホームの玄関から出る機会を増やしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族からお金を預かっており外出等に使っている。管理ができる人には家族本人同意のもと所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて職員入居者と一緒に作品を作り飾っている。温度も細目に確認し調整している	清潔保持に努め、安全面からも、生活空間の整理整頓を徹底指導している。季節感のある空間づくりの工夫したり、作品や写真掲示で居場所づくりを演出し、居心地の良い場所づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合った人と話ができるよう座席の配置をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物があれば持って来て頂いている	居室で過ごすことを好む利用者もおられ、安全面に配慮した空間作りを工夫している。使い慣れた家具や日用品の持ち込みは自由で、本人・家族と共に、過ごしやすい環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等危険につながるものがないよう一人ひとりでできることを職員が見極め支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400194		
法人名	医療法人親理会		
事業所名	グループホーム明日		
所在地	愛知県半田市郷中町2丁目7番地		
自己評価作成日	平成28年 2月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400194-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400194-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年 2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である中町クリニックが近くにあり、急変などの対応が素早くでき安心して生活できます。ラジオ体操や嚙下体操も毎日とりいれ体を動かし、またレクリエーションでは歌を唄ったり、絵を描いたり、折り紙を折ったりと飽きのこないようにバリエーションを増やしています。食事は職員が作りますが、刻みやお粥など体調に合わせた食事形態にも対応しています。入居者一人一人の個性を重視し安心して生活ができるよう押し付けや職員の自己満足にならないよう申し送りや会議の場で職員同士注意するし合うようにしています。グループホーム明日の理念である”あきらめずに、信念をもって、たくましく”を実践できるよう代表者、管理者と職員のコミュニケーションを大切にするため面談や声掛けを頻回にしており退職者も減少してきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成して職員全員が実践できるように目の付くところへ掲示している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時には地域の方々にも参加して頂くようにしている。日常的にはまだできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的な交流を進めていき、認知症の理解を深めていく必要がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見は職員全員が周知して参考にして、改善要望は法人でも話し合いの議題としてあげている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、ケアのみならず運営面や多岐に渡り相談に乗ってもらいアドバイスや意見を頂き関係を密にしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修をしてどのような事が拘束になるか勉強し拘束をしない介護に取り組んでいる、今後は拘束をした時の研修もする予定		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待について学び、職員がお互いに注意、防止に努めている。発見した時は速やかに上司に報告それが困難の時は市役所へ連絡することが義務とも教えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで説明し理解をもってもらっている。基本的には管理者が実際は対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を見ながら説明して途中で理解できなかったか質問はないか確認しながら理解度を高めるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議のときに話せる時間をとって対応している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートや個人面談などを通じて聞く機会の確保を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備できていない所は、代表者に意見や相談をして働きやすい環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修について退職などありスケジュール通りにできていない。本人の要望や経験を考慮しながら研修に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在実施できていない。積極的に相互活動を実施していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は不安もあるため声掛け見守りを注視している。また記録についても細かく記載するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞き何をホームに求めているのか、対応可能なのか事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いたうえで状況を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	呼称もさん付で呼ばせてもらい、全てするのではなくその方ができない所を見究め介護するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活ぶりや健康面などを話して、職員と一緒に考え決定するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員の方には実施できていないが、友人や生徒さんなどにも訪問して頂き途切れないよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所は特に決まっていないため自由に座ってもらい利用者同士が関わりを持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の方にお会いすれば様子を聞いたり、訪問した時に様子を見に行ったりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得ることもあるが、困難なときは関わり合いの中から得るように心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に家族からのヒアリングやプライバシーに配慮しながら本人から聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる事を大切にしながら現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間ではカンファレンスで意見を出し、家族や聞ければ本人からの意見もとりたいながら介護計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気づきや思ったことを記録し、またできる事が増えたら記録し共有するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的に何をしているというものはないが困っていることなどあれば何をすればよいのか知恵を出し合って柔軟な対応をする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の力を借りながらもっと楽しく過ごせるよう地域資源を有効に今後は活用していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師は夜間や休みも連絡が取れ、駆け付けても下さるため安心して生活できる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に状態を伝える。また夜間の緊急連絡なども対応もしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には頻回に病院にお見舞いに行き早期に退院できるよう看護師、ドクター及び家族と連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でも対応できることをお話しして、退居の時は地域の施設や病院などと連携して入れるところを探していく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当や蘇生術・AEDの使用などの研修を実施し職員ができるようにする		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと避難訓練・消火器の使い方などの訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげないケアを心がけて、自己決定しやすい言葉かけや優しい口調できくような心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをして自分で選択して決定できる機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思決定を大切にしながら、一日を過ごして頂くよう体操やレクリエーションなど企画を実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台で洗顔するとき鏡を見ていただき髪の毛をセットしたり髭剃りをしたりしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあった形状での提供をして、嫌いな食べ物の時はその方だけメニューを変更している。また片づけ後の食器拭きなど手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量を確認し、水分が少ないときはその方が好きなもので水分を取ってもらうなどして、むせのある方はとろみやゼリーで摂ってもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていて、自分でできないときは介助している、また入れ歯も每晚薬品につけ清潔にして希望者には歯科医で口腔内を見て頂いている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での誘導や様子からトイレへの声掛けを行ないトイレの失敗の減少を心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを摂って自然排便できるように購入機会を多くしている。それでも出ない時には薬の服用も併用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴はしていただき無理には誘わず人を変えたりしている。時間は職員都合になっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は21時なので時間になるとリビングの電気は消している。年齢的に休息が必要な方には時間を決め横になっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について職員一人一人が確認して理解を深めている。薬が変わった時は変化について注意するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを確認して役割を持って頂く。また生活の中での楽しみごとを見究め実践していく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る機会が少ない。本人に行きたいところを聞き家族や地域の力を借りて出かけられるように支援していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を本人で持っている方もいるがお小遣いとして事業所で預かっている。買い物など出かけ支払機会があればお金を渡し支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族から止められているところもあるため手紙などで連絡できるよう支援していく		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある掲示をしたりしている。入居者の方と作成した品などもっと華やかにしていきたい		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は決まっていないため一人になりたいときや話をしたいときなど自由にできる。また畳スペースもあり気分を変える事も出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真など持参され家族や友人、ペットを忘れないようにされている。使い慣れたものの持参はあまりない		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活の中で家族として協力し合って過ごせるよう職員も一人一人の力を見究め自立した生活ができるよう支援している		